

3 (改)

B1103

秘

聯合國ノ對日要求ノ内容ト其ノ限界(研究素材)
(昭、二十六年十一月條約局)

第一、聯合國ノ對日要求ノ内容

一、政治的要求

- 1. 天皇及日本政府ノ權力ニ對スル制限
 - イ、右權力ノ聯合國最高司令官ノ從屬(八月十四日聯合國對日回答(以下「對日回答」ト稱ス)、「降伏後ノ日本ニ對スル米國ノ初期ノ政策」(以下「政策」ト稱ス)第二部)
 - ロ、最高司令官ノ要求スル命令發出及措置實施ノ義務(同右)
- 2. 現存日本統治形式ニ對スル不支持、右統治形式變更ノ企圖ノ許容及支持(政策第二部)
- 3. 領土的要求
 - イ、太平洋諸島嶼ノ剝奪(「ポツダム」宣言(以下「宣言」ト稱ス)八、「カイロ」宣言)

- ロ、滿洲、臺灣、澎湖島等ノ中國ヘノ返還(同右)
- ハ、占領地ノ返還(同右)
- ニ、朝鮮ノ獨立(同右)朝鮮ノ信託統治領代(「二十一」ウイシメント)極東部長聲明)
- ホ、千島及樺太南半ノ「ソ」聯ヘノ割讓(「ソ」政府聲明)
- 4. 軍國主義ノ抹殺及民主主義ノ助長ニ關スル要求(宣言六)
- 十、政策第一部)
 - イ、軍國主義の勢力及權力ノ除去(宣言六、政策第一部)
 - 軍國主義的又ハ極端ナル國家主義的團體、機關ノ解消、指導者ノ被免(政策第三部)
 - 宗教的外被ニ憑レタル軍國主義、極端ナル國家主義ノ禁絶(同右)
 - 教育者中ノ右分子ノ除去(「十、二二」最高司令官司令部覺書(以下「覺書」ト稱ス))

口、言論、宗教及思想ノ自由並ニ基本的人權ノ尊重(宣言十、

政策第一部)

司法、法律、警察組織ノ民主主義的改革(政策第三部、十、

十一「マ」元帥要求)

思想、言論取締法令ノ撤廢(九、二七覺書)

祕密警察組織ノ廢止、警察當局者ノ被免(十、四覺書)

政治犯罪人ノ釋放(十、四覺書)

民主主義的政黨ノ獎勵(政策第三部)

人權、國籍、信教又ハ政治的見解ニ依ル差別法令ノ撤廢及

右法令實施機關ノ廢止(政策第三部)

ハ、教育制度ノ改革(政策第三部、十、十一「マ」元帥要求

十、二二覺書)

ニ、婦人ノ政治參與(十、十一「マ」元帥要求)

5、戰爭責任者及戰爭犯罪人ノ處罰(宣言六、十、政策第三部)

8、外交權ニ對スル制限

在中立陣日本外交使臣及領事官ノ召還、在外日本公館財産及

文書ノ引渡要求(十、二五覺書)

一 軍事的要求

- 1、全日本國軍隊、無條件降伏（宣言十三）
- 2、軍隊ノ武装解除及武器引渡（宣言九、指令第二號）
陸海軍、大本營ノ廢止（政策第三部）
國土防禦施設ノ撤去（一般命令四、五、指令第二號）
艦船、航空機、施設、財産ノ處分、處分迄破壞ノ禁絶（一般命令一、四、六）
- 3、俘虜及被拘留者ノ釋放（一般命令九、指令第二號）
- 4、日本國領土ノ占領（宣言七、政策第二部）
占領ニ對スル日本當局ノ援助（一般命令十）
占領軍命令ノ遵守及違反者ノ處罰（一般命令十三）
物資ノ供出、勞務ノ提供、建築物施設ノ提供（指令第二號）
占領軍トノ聯絡機關ノ設置（指令第二號）
民間武器ノ蒐集及引渡（一般命令十一、九、二四指示）

- 新聞、放送ノ取締（九、十覺書）
郵便、通信ノ檢閲（十、一覺書）
- 5、軍事的情報ノ提供（一般命令二、七、指令第二號）

三、經濟的要求

- 1、賠償ノ賦課及略奪財產ノ返還（宣言十一、政策第四部）
在外日本財產ノ引渡及處分（政策第四部）
國民經濟及占領軍ノ補給ニ必要ナラサル物資、資本、設備
施設ノ引渡（同右）
略奪財產ノ返還（同右）
- 2、軍需產業ノ禁絶（宣言十一、政策第四部）
兵器、彈藥、軍用艦船、軍用器具及其ノ部分品ノ生産禁止
（指令第三號）
重工業ノ規模、性格ヲ平和的需要ニ制限（政策第四部）
偽裝平和產業ノ禁絶ノ爲ノ監視（同右）
戰爭遂行能力増進ヲ目的トスル専門的研究等ノ禁止（同右）
- 3、原料支配ノ禁絶（宣言十一）
- 4、占領軍ノ許可ナキ輸出入ノ禁止（指令第三號）

0230

- 5、日本經濟ノ民主主義化（政策第四部、十、十一「マ」元師
要求）

産業、金融上ノ大財閥ノ解体（政策第四部）

非平和的經濟指導者ノ地位剝奪（同右）

生産及商業手段及之ヨリノ收益分配ノ廣範化（同右）

労働、産業、農業ノ分野ニ於ケル民主主義的組織ノ獎勵

（同右）労働組合ノ助長（十、十一「マ」元師要望）

- 6、財政金融的要求

占領軍軍票ノ強制通用（指令第三號）

金、銀、證券ノ取引及輸出入ノ制限（九、二二覺書）

外地特殊銀行等ノ閉鎖（九、三〇覺書）

- 7、國民經濟維持ニ關スル要求（宣言十一）

配給ノ公正化（政策第四部）

國民經濟活動ノ管理統制（政策第四部指令第三號）

0229

公共事業、財政、金融、必需物資ノ生産及分配ノ管理（政策第四部）

貨金、價格及配給統制（指令第三號）

生産ノ増進（政策第四部指令第三號）

軍需品ノ民需ヘノ轉換（九、二四號書）

8、麻藥ノ栽培、製造ノ禁止（十、十二號書）

9、經濟情報ノ提供（指令第三號）

10、日本國內ニ於ケル外國企業ノ機會均等（政策第四部）

11、皇室財産ニ對スル除外例ノ不承認（同右）

第一 聯合國ノ對日要求ニ對スル限界

(一) 政治的事項

1) 日本ノ政體決定ヘノ不干涉（宣言十二、對日回答、政策第一

部）

(二) 現存日本政府ノ承認、直接軍隊ノ不施行（聯合國最高司令官

ノ權力ハ右司令官ノ要求ガ満足ニ果ザル限リ、天皇及日本

政府ヲ進ジテ行使セララルルノ原則）（宣言十、十三、政策第

二部）

(三) 日本ノ統治權ニ對スル制限ノ限界、天皇及日本政府ノ國家

統治權ニ對スル制限ハ聯合國最高司令官ガ降伏條項實施ノ爲

必要ト認ムル措置ノ範圍ニ限定）（對日回答）

(四) 日本ヨリ刺奪スベキ領土ノ限界（宣言八、「カイロ」宣言）

(五) 日本國民ヲ奴隸化乃至滅亡セシメザルノ誓約（宣言十）

(3) 軍事的事項

(1) 日本領土ノ占領目的、占領期間ノ限界、撤兵ノ條約（宣言七、十二）

(2) 日本國軍隊ノ家庭及平和の生業（ノ復讐ノ承認）賠償代

勞後賦課ノ抑制（宣言九）

(3) 占領軍ニ依リ物資、勞務徵用ノ制限（飢饉、疫病ヲ招來スルカ如キ物資、勞務ノ調達ヲ爲サズ）（政策第四部）

(3) 經濟的事項

(1) 國民生活維持ノ爲ノ産業ノ承認（宣言十一、政策第一部、第四部）

第四部

(2) 原料入手ノ承認（宣言十一）

(3) 世界貿易（ノ）參加承認（宣言十一、政策第四部）

(4) 賠償ニ對スル制限（國民經濟ノ保持、日本ノ非軍事化ニ支障ヲ來スガ如キ賠償ヲ強要セス）（政策第四部）

過去ニ於ケル聯合國宣言、聲明等ニ依ル限界（乃至之ノ矛盾）

盾

(1) 政治的事項

(1) 領土ノ問題

今次戰爭ニ關係ナク帝國方正當ニ取得シ且帝國ノ主權行使

ニ付從來爭ナカリシ領土ノ割讓ノ問題（聯合國ハ、領土的

其ノ他ノ擴大ヲ求メズ）（大西洋憲章第一項）「自國ノ爲ニ

何等ノ利得ヲモ欲求スルモノニ非ズ又領土擴張ノ何等ノ念

ヲ有スルモノニ非ズ」（「ガイロー」宣言）

住民ノ意思ニ反シ領土ノ歸屬ヲ決シ得ルヤノ問題（大西洋

憲章第二項、關係國民ノ自由ニ表明セル希望ト一致セザル

領土の變更ノ行ハルルコトヲ欲セズ）

(2) 統治形式ノ問題

日本國民ノ自由ニ表明セル意思ニ依リ現統治形式ノ存續ガ

決セシレタル場合聯合國ハ之ニ干渉シ得ルヤノ問題ハ暗ニ
統治形式ノ變更ヲ希望シ居ルヤニ疑ハルルニ米國ノ初期ノ
對日政策「第二部ノ條項ト「ボツダム」宣言第十二項及大
西洋憲章第三項」一切ノ國民ガ其ノ下ニ生活セシムル政
體ヲ選擇スルノ權利ヲ尊重ス」トノ矛盾

(2) 經濟的事項

(イ) 世界通商及原料ノ機會均等 (大西洋憲章第四項) 戰勝國タル
ルト敗戰國タルトヲ問ハズ一切ノ國ガ其ノ經濟的繁榮ニ必
要ナル世界ノ通商及原料ノ均等條件ニ於ケル利用ヲ享有ス
ルコトヲ促進スルニ努ムベシ

(ロ) 國民經濟ノ維持向上 (大西洋憲章第五項) 改善セラルベシ
勞動基準、經濟的向上及社會的安全ヲ一切ノ國ノ爲ニ確保
スル爲右一切ノ國ノ間ニ經濟的分野ニ於テ完全ナル協力ヲ
生ゼシメンコトヲ欲ス

三 既存條約ニ依ル境界 (乃至之トノ矛盾)

(イ) 委任統治地域ニ付

「カイロ」宣言「日本ガ「奪取シ又ハ占領シタル」モノトシ
テ「剝奪」ス

「ヴェルサイユ」條約「ヤップ」島及他ノ赤道以北ノ大平
洋委任統治諸島ニ關スル日米條約 (我國ノ「構成部分トシテ
施政ヲ行フ」地域トシテ承認ス) トノ矛盾

(ロ) 臺灣及澎湖列島ニ付

「カイロ」宣言「日本ガ清國ヨリ「盜取シタル地域」ナルヲ
以テ中國ニ返還

日清講和條約、大太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及領地ニ關
スル四國條約及追加協定トノ矛盾

(ハ) 朝鮮ニ付 (日韓合併條約、韓國併合宣言ニ對シ今日迄米、英、
蘇ノ何レヨリモ異議アリタルコトナシ)

(二)樺太・千島ニ付「樺太・千島交換協定」、「ポーツマス」條約、平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及領地ニ關スル條約及追加協定・華府條約（千島ニ對スル我領土權ヲ保障スル明文アリ）高平「ルート」協定（日米兩國政府ハ相互ニ前記方面ニ於テ「他ノ一方ノ有スル所領ヲ尊重スルノ強固ナル決意ヲ有ス」）等トノ矛盾）

四 一般國際法ニ依ル境界

1、聯合國側對日要求ノ法的根據ヨリ生スル境界

(一)右法的根據ハ「ポツダム」宣言、降伏文書、其ノ他ノ往復文書ヲ内容トスル彼我ノ合意ニ存ス（獨ノ場合トノ相違）右合意ハ彼我ヲ平等ニ拘束シ從テ聯合國側ノ要求ハ右合意ノ範圍ヲ逸脱スルヲ得ス

2、占領ノ法的性質ヨリ生スル境界

イ、合意ニ基ク占領（海牙陸戰法規ノ定ムル如キ戰時占領トノ差異）ナルニ依リ占領軍ノ權力ハ右合意ニ依リ制約セラレ
ロ、一九〇七年海牙條約ノ準用（合意ニ基ク占領ナリト雖モ右合意中ニ明定セラレサル限り本條約ヲ準用スヘク特ニ同條約ノ人道的精神ヘ之ヲ尊重シ出來得ル限り之カ準用ニ努メサルヘカラス（例ヘハ現行法律ノ尊重、私有財産ノ尊重、掠奪ノ嚴禁等）

3 主權制限規定ノ「制限的」解釋

一國ノ主權ヲ制約スル條項ニシテ疑義アル場合ハ之ヲ「制限的」ニ解釋スヘキコト國際法上ノ確立セル原則ナリトス（從テ將來聯合國ノ要求ニシテ彼我ノ合意ヲ逸脱スルノ疑アル場合ハ有原則ヲ援用スルヲ得）

2

(2) 進駐軍の駐屯費支出方法並に爲替換算率関係

極秘

聯合國進駐軍ノ駐屯費支出方法ニ關スル件

聯合國進駐軍ノ本邦内ニ於ケル支拂ハ其ノ携帶通貨ノ如何ニ拘ラズ日本通貨ニ對シテハ右ノ如キ手續ヲ以テ共ニ右ノ駐屯費ハ今後ノ賠償處理ニ關シテハ右ノ如キ手續ヲ以テ必要アル等ニ對シテ左記ニ依ルコト

手内
物多

水三

- 第一進駐軍ノ人件費等之ニ現金交付ヲ要スル場合
- 甲 中央連絡機關ハ聯合軍司令部ヨリ所要ノ金額ノ申入ヲ受ケタルト
- 乙 大藏省外務局ニ連絡スルコト
- 丙 大藏省外務局ハ必要ナル金額ヲ日本銀行ヲシテ聯合軍司令部ニ交付セシムルコト
- 丁 右ノ金額ハ日本銀行ヲシテ一時立替支出セシメ之ヲ後勘定トシテ
- 後進セシメ右ノ右後勘定ハ今後ニ於ケル備蓄ニ即座シ進宜措置スルコト
- 前項ノ立替支出ノ爲必要アルトキハ大藏省ヨリ日本銀行ニ請シ所

要再回系

4/1/90 2

要ノ措置トナスコト

第三進駐軍ニ對シテ物酌施設ヲ提供スル爲經費ヲ支出スル場合

- 甲 中央連絡機關ニ於テ聯合軍司令部ヨリ物酌施設等ノ提供ヲ申入ヲ受ケタルトキ之ヲ調査ノ爲必要トスル經費ヲ中央連絡機關ヨリ大藏省外務局ニ連絡スルコト
- 乙 大藏省外務局ハ必要ナル經費ヲ日本銀行ヲシテ支出セシムルコト
- 丙 之ガ整理ニ付テハ右第一項ニ依ルコト
- 丁 物酌施設等ノ提供ニ當ル關係各機關ニ對シテハ日本銀行ニ代リ經費支出ノ爲ノ事務ヲ行フコト

外務省
大藏省
水三
手内
物多

法京札
以作爲長

3.11.2

1100 2

横須賀ニ於ケル爲替換算率ノ件

(昭和二〇九一五朝海書記官)

横須賀ニ於ケル日米爲替換算率ハ新聞ニ一弗十五圓ノ率カ不正確ニ
 報道セラレテ以來相當ノ紛糾ヲ生シ居タルモノノ如ク取引ノ遲延モ
 見受ケラレタリ然ルニ九月十四日高岡總領事ヨリ米側ハ日本側ニ對
 シ十五圓ノ「レート」適用方申出テタルニ付出張アリタキ旨連絡ア
 リタルニ付十五日同總領事及本官ト米側責任官「ボキシ」少佐ト
 會見左ノ如キ會談ヲ行ヒタリ

「ボ」少佐ハ新任シテ本日高岡總領事ヲ招致セルハ日本側諸般
 關ノ命令系統、交渉ノ相手方等ヲ確ムルニアリタキモノノ如ク豫
 想セラレタル爲替相場問題ニハ觸レズ依テ日本側ヨリ切リ出セリ
 日本側「例」ハ昨日貴官ニ於テ爲替相場ノ問題ニテ警察署長ト
 便局長ヲ招致セラレタル由ナルカ此ハ問題コソ自分等ニテ御相
 談スヘキ事項ナリ

外務省

經濟局

米「自分ハ著任勿々ニテ様子ヲ承知セザリシ故不適當ナル人ヲ招
 致シタルヤモ知レズ今後ハ注意スベシ」

日「警察署長ニ如何ナル御注文ヲ出セリヤ」

米「米側ハ將兵ニ對スル者當ニモアル通り一弗對十五圓ニテ換算
 シ居ルニ拘ラズ日本側ハ四圓二十五錢ノ不當ナル相場ヲ維持シ
 居レリ依テ十五圓ニ適用方嚴命ヲ下シ署長等ハ右ニ基キ手廻申
 ノ答ナリ」

(依テ高岡總領事及本官ヨリ交々米國側トシテモ弗償ノ使用ニハ
 反對ナリト通考セラルル根據アリ) 日本側ハ既ニ國資金ヲ十分
 ニ提供シ居ル旨、一弗對十五圓ハ米軍内部ノ「レート」ニテ日本
 側ノ關知スルモノニ非ル旨「レート」ノ變更ハ米軍總司令部ニ於
 テモ要求ナク又カ、ル要求ヲ行フ様ニ見受ケラレザリシ旨等交々力
 説セル處)

米「然ラバ日本側ハ少クとも銀行ヲシテ四圓二十五錢ニ依ル交換

外務省

要求ニ應ゼザル様措置アリ度」

日「空軍ヨリ日本側ヨリハ米軍ニ於テ非實不使用ヲ將兵間ニ徹底セシメテラレ度」

米「當地米備トシテハ直チニ將兵ニ對シ米實ヲ使用セザル様訓令ヲ發スベキニ付日本側銀行ニ於テ非相對ニ之ヲ交換ニ應ゼザル様措置アリ度」

日「自分等トシテハ右様措置ニ差支ナシト思考スルモ一應東京ニ請訓ノ上回答スベシ」

外務省

ニ連絡事務局ニ歸來後各方面ニ就キ確メタル處ニ依レバ警察局長及郵便局長ハ一時日ハ「ボ」少佐(陸軍)ノ前任者タル「キツン」代將(海軍)昨日ハ「ボ」少佐(陸軍)呼ビ出サレ一弗十五圓ヲ至急徹底方命令ニ反スレバ嚴罰ニ處スル旨書ヒ渡サレタルニ付右ノ儘米軍申渡トシテ銀行等ニ取次ギタルモノナリ銀行方面ハ本件既ニ手配ズミナリシニ付前記「ボキシー」少佐トノ話し合ニ基キ警察等ニハ昨日ノ情報ヲ取消サシメタリ

(以上本省ヨリ通貨問題ニ關スル新情報ニ接スル前ノ報告ナルガ總司令部ノ命令ハ當地米備ニモ必ズシモ徹底シ居ラザルモノノ如ク陸海軍ト分レ居ル關係モアルベシ)將來モ混亂ノ生スル可能性多シト認メラレタリ)

外務省

(20-10-1)

終戰事務情報

第一號

目次

一、新官制	一
(一) 終戰連絡事務局官制改正ノ経緯	一
(二) 改正終戰連絡事務局官制	一
(三) 新官制對照表	二
二、終戰連絡事務局地方機構ニ關スル件	四
(一) 昭和二十年七月六日閣議決定要旨	四
(二) 昭和二十年九月十七日大會議報告事項	五
(三) 外務省告示第三號	五
(四) 外務省告示第四號	五
三、聯合國進駐軍ノ經費ニ關スル件	六
四、通譯ノ身分及待遇ニ關スル件	八
五、地方事務局及出張所職員表	九

終戰連絡中央事務局第一部第一課

一、本情報ハ終戰連絡事務局關係資料ヲ蒐録シ以テ關係各方面ノ執務參考ニ供スルヲ以テ目的トス

二、右目的ニ添ハシムル爲、週報等定期刊行ノ形式ヲ採ラズ、必要ニ應ジ隨時之ヲ刊行シ以テ中央事務局及地方事務局其ノ他關係機關ニ配布スルモノトス

一、新官制

(一) 終戦連絡事務局官制改正ノ経緯

聯合國軍隊ノ本邦進駐ニ伴ヒ、聯合國側ノ要望モアリ聯合國側トノ連絡ニ便ナラシメンガ爲、帝國政府ハ舊ニ官制ノ制定ヲ仰ギ外務省ノ外局トシテ終戦連絡事務局ヲ設ケ、中央事務局ノ外聯合國軍隊ノ進駐ヲ見タル地ニ地方事務局ヲ設ケタルガ、爾後、聯合國軍進駐ノ進展ニ伴ヒ、聯合國側トノ連絡事務益々複雑多岐ニ亘ルト共ニ愈々其ノ重要ノ度ヲ加フルニ至リタルヲ以テ、上級終戦連絡事務局ノ機構ニ付テモ亦補充強化ノ要緊切ナルモノアルニ至リ、今般本件改正勅令ノ制定ヲ仰ギタルガ右改正ノ要點ハ中央事務局ニ於テハ(一)現在勅任ノ長官ヲ置ケルヲ改メ親任ノ總裁ヲ置キ(二)新ニ勅任ノ次長二人ヲ置キ内一人ハ外務次官ヲシテ之ヲ兼ネシメ(三)現在四部ヲ設ケ居ルヲ改メテ六部トシ結局ニ部ヲ増設シ(四)現在外務部内勅任官ノ補職トセラレ居ル部長ヲ本官タル勅任ノ職員トシ更ニ中央事務局及地方事務局ノ双方ニ付(一)現在外務部内高等官及判任官ノ補職トセラレ居ル連絡官及連絡官補ヲ各本官タル職員トシ(二)新ニ參與若干人ヲ置キ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命シ局務ニ參與セシムルノ途ヲ拓カントスルニ在ルモノナリ。

(二) 改正終戦連絡事務局官制

第一條 終戦連絡事務局ハ外務大臣ノ管理ニ屬シ大東亞戰爭終結ニ關シ聯合國官憲トノ連絡ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條 終戦連絡事務局ハ終戦連絡中央事務局及終戦連絡地方事務局ト

ス
地方事務局ノ名稱、位置及所管事項ハ外務大臣之ヲ定ム
第三條 中央事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

Table with 2 columns: Position and Appointment. Includes 總裁 (親任), 部長 (二人 勅任), 秘書官 (一人 奏任), 連絡官 (專任 百六十三人 奏任), 連絡官補 (專任 九十六人 判任), 局長 (次長ノ中一人ハ外務次官ヲシテ之ヲ兼ネシム).

第四條 地方事務局ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク
局長
連絡官 專任 四十四人 奏任 内四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
連絡官補 專任 三十五人 判任
局長ハ連絡官ヲ以テ之ニ充ツ
連絡官及連絡官補ノ各地方事務局毎ノ配置ハ總裁之ヲ行フ
第五條 前二條ノ職員ノ外必要ニ應ジ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ中央事務局又ハ地方事務局ノ連絡官ヲ命ズルコトヲ得
前條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル地方事務局ノ連絡官ニ付之ヲ準用ス
第六條 中央事務局ニ總裁官房並ニ總務部、第一部、第二部、第三部、第四部及第五部ヲ置ク
總裁官房及各部ノ事務ノ分掌ハ總裁之ヲ定ム
第七條 中央事務局及地方事務局ニ參與若干人ヲ置キ局務ニ參與セシム

(三) 新舊官制對照表

參與ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第八條 總裁ハ局務ヲ統理シ所部ノ職員ヲ指揮監督シ中央事務局及地方事務局ノ連絡官補ノ進退ヲ專行ス
第九條 次長ハ總裁ヲ佐ケ局務ヲ掌理ス
第十條 部長ハ總裁ノ命ヲ承ケ各部ノ部務ヲ掌理ス
第十一條 秘書官ハ總裁ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル
第十二條 局長ハ總裁ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
第十三條 連絡官ハ上官ノ命ヲ承ケ中央事務局又ハ地方事務局ノ局務ヲ

(新)

第一條 終戦連絡事務局ハ外務大臣ノ管理ニ屬シ大東亞戰爭終結ニ關シ聯合國官憲トノ連絡ニ關スル事務ヲ掌ル
第二條 終戦連絡事務局ハ終戦連絡中央事務局及終戦連絡地方事務局トス
地方事務局ノ名稱、位置及所管事項ハ外務大臣之ヲ定ム
第三條 中央事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

Table with 2 columns: Position and Appointment. Includes 總裁 (親任), 部長 (二人 勅任), 秘書官 (專任 一人 奏任), 連絡官 (專任 百六十三人 奏任), 連絡官補 (專任 九十六人 判任), 次長ノ中一人ハ外務次官ヲシテ之ヲ兼ネシム.

(舊)

第十四條 連絡官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ中央事務局又ハ地方事務局ノ局務ニ從事ス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
外務部内ノ高等官又ハ判任官ニシテ本令施行ノ際現ニ終戦連絡中央事務局ノ連絡官若ハ連絡官補又ハ終戦連絡地方事務局ノ連絡官若ハ連絡官補ノ職ニ在ルモノ別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ夫々其ノ職名ト同一ノ官ニ同官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス
同條第二項
終戦連絡地方事務局ノ名稱位置及所管事項ハ外務大臣之ヲ定ム
第三條 終戦連絡事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

Table with 2 columns: Position and Appointment. Includes 局長 (勅任), 部長 (四人 勅任), 連絡官 (百三十人 奏任), 連絡官補 (七十八人 判任), 終戦連絡地方事務局 (四人 勅任).

第四條 地方事務局ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

局長 專任四十四人 奏任

連絡官 內四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

連絡官補 專任三十五人 判任

局長ハ連絡官ヲ以テ之ニ充ツ

連絡官及連絡官補ノ各地方事務局毎ノ配置ハ總裁之ヲ行フ

第五條 前二條ノ職員ノ外必要ニ應ジ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ中央事務局又ハ地方事務局ノ連絡官ヲ命ズルコトヲ得

前條第三項ノ規定(前項ノ規定)ニ依ル地方事務局ノ連絡官ニ付之ヲ準用ス

第六條 中央事務局ニ總裁官房並ニ總務部、第一部、第二部、第三部、第四部及第五部ヲ置ク

總裁官房及各部ノ事務ノ分掌ハ總裁之ヲ定ム

第七條 中央事務局及地方事務局ニ參與若干人ヲ置キ局務ニ參與セシム參與ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第八條 總裁ハ局務ヲ統理シ所部ノ職員ヲ指揮監督シ中央事務局及地方事務局ノ連絡官補ノ進退ヲ專行ス

第九條 次長ハ總裁ヲ佐ケ局務ヲ掌理ス

第十條 部長ハ總裁ノ命ヲ承ケ全部ノ部務ヲ掌理ス

連絡官 (四十人 奏任)
連絡官補 (三十五人 判任)

第七條 局長ハ外務部内勅任官ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ命ヲ承ケ終職連絡地方事務局ノ局務ヲ掌理ス

第八條 第二項 前項ノ外連絡官ハ必要ニ應ジ關係各廳高等官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 終職連絡中央事務局ニ第一部、第二部、第三部及第四部ヲ置ク各部ノ分掌ハ外務大臣之ヲ定ム

第五條 長官ハ外務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ終職連絡事務局ノ局務ヲ統理ス

第六條 部長ハ外務部内勅任官ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ命ヲ承ケ終職連絡中央事務局ノ各部ノ部務ヲ掌理ス

第十一條 秘書官ハ總裁ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 局長ハ總裁ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十三條 連絡官ハ上官ノ命ヲ承ケ中央事務局又ハ地方事務局ノ局務ヲ掌ル

第十四條 連絡官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ中央事務局又ハ地方事務局ノ局務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外務部内ノ高等官又ハ判任官ニシテ本令施行ノ際現ニ終職連絡中央事務局ノ連絡官若ハ連絡官補又ハ終職連絡地方事務局ノ連絡官若ハ連絡官補ノ職ニ在ルモノ別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ夫々其ノ職名ト同一名ノ官ニ同官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

二、終職連絡事務局地方
機構ニ關スル件

(一) 昭和二十年九月六日閣議決定要旨

一、聯合國地方軍司令部ニ對スル諸情報ノ提供、設置(關係各廳ノ十分ナル協力ニヨリ之ヲ行フ)各種ノ便宜供與及其他連絡事務ヲ擔任セシムル爲、外務大臣ハ必要ナル地ニ終職連絡地方事務局(以下地方事務局ト稱ス)ヲ設置ス

二、地方事務局ハ終職連絡中央事務局ノ指揮命令ニ從フモノトス

第七條 局長ハ外務部内勅任官ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ命ヲ承ケ終職連絡地方事務局ノ局務ヲ掌理ス

第八條 第一項 連絡官ハ外務部内高等官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第九條 連絡官補ハ外務部内判任官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第八條中「選信院次長」ノ次ニ「終職連絡中央事務局局長」ヲ加フ別表第一表外務省ノ部中外務事務官ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

終職連絡中央事務局局長官	同上

三、地方事務局ノ局長ハ外務部内高等官(他省又民間ヨリ任用スル場合アルモ官制上身分ハ外務部内ノ高等官トス)中ヨリ之ヲ選任ス

四、關係各廳ハ地方事務局職員ノ構成ニ付協力スルモノトス

五、關係各廳トノ連絡ヲ密ニシテ地方事務局設置ノ目的達成ニ遺憾ナキヲ期スル爲地方事務局ニ終職連絡地方委員會ヲ設置ス

六、終職連絡地方委員會ノ委員ハ關係各省、地方總監督、都道府縣等ノ關係官ヲ以テ組織シ委員長ハ地方事務局局長之ニ當ル

- 二、進駐軍ノ人件費等ニ提供シタル軍費ヨリ直接支拂フモノ(第二ノニ参照)ハ日銀本店ノ司令部勘定ヨリ所要地ニ送金シ其ノ地ノ進駐軍ヨリ支拂フコト
- (一) 終戦連絡中央事務局ハ進駐軍側ヨリノ要求ヲ大蔵省外資局ニ連絡シ日銀外資局ノ指示ヲ受ケテ所要地ノ取扱銀行(日銀支店又ハ代理店)ニ在ル軍側ノ勘定ニ所要金額ヲ送金スルコト
- (二) 日銀ハ(一)ノ送金手續ヲ終了スルト共ニ聯合軍司令部ニ之ヲ通知スルコト
- (三) 地方取扱銀行ハ(一)ノ送金ヲ受ケタル共ニ其ノ地ノ進駐軍ノ支出擔當官ニ之ヲ通知スルコト

第二、經費支辨ノ區分

- 一、日銀假勘定(終戦連絡中央事務局名義)ヨリ支出スヘキ費目左ノ如シ
 - (一) 個人的「サーヴィス」以外ノ人夫雇傭ノ場合ノ勞賃
 - (二) 事務所、宿舍及家具、什器等ノ賃貸料(建物ニ附帯スル「サーヴィス」人員ノ給料ニシテ、(一)ニ該當セサルモノハ賃貸料ニ含メテ計上スルモ可)
 - (三) 事務所、宿舍等ノ大規模ナル修理改装費用
 - (四) 野耕地等ノ爲ニスル土地ノ地代
 - (五) 個人的「サーヴィス」以外ニ屬スル物資調達及運輸等「サーヴィス」提供ノ代價
 - (六) 宿舍及土地提供ニ伴フ移轉料立退料
- 尙二、ニ掲ケル費目ニシテ先方ニ於テ支拂ヲ肯セサル場合ハ支拂ノ項目及金額ヲ先方ノ軍ニ通告シタル上立替支拂ヲ爲シ置クコト
- 三、進駐軍ニ提供シタル軍費(進駐軍自體ノ勘定)ヨリ支拂方措置スヘキ費目左ノ如シ
 - (一) 將校宿舍ニ於ケル管理人、個人的使用人及通譯等雇入ノ給料、洗濯代等個人的「サーヴィス」ニ屬シ各項目少額ニシテ件數多キモ
 - (二) 宿舍ノ修理費等ニシテ少額ノモノ
 - (三) 各個人ニ屬スル「ホテル」代
 - (四) 米軍兵士等ノ徵發又ハ掠奪其他ノ不法行爲ニ對スル賠償金
- 一、二、ノ何レニ屬スルヤ不明ナル費目ニ付テハ中央事務局ニ相談アリ度キモ其ノ餘裕ナキトキハ、ヨリ支出シ置クコト
- 尙處理濟ノモノ及從前ノ措置ノ繼續ニ依ルモノニシテ急速ノ切替困難ナルモノニ付テハ一、二、ノ原則ニ依ルコトナク之ヲ容認スルモ已ムヲ得ズト認ム

第三、經費支辨ニ關スル注意

- 一、本經費ハ將來聯合國ニ對スル賠償金ノ一部トナル可能性多キニ付其ノ點ヲ考慮シ一般國費ヨリ支辨スベキモノト混同セサルコト(聯合國軍進駐ニ伴フ地方廳、地方事務局連絡委員會自體ノ經費モ國費ナルコト勿論ナリ)
- 二、物資調達ニ付テハ極力小部隊ニ依ル徵發行爲ヲ避ケシムル様大ナル單位ニ於テ需要量ヲ定メシムルコト
- 三、本經費支出ノ單價ハ第二、(經費支辨ノ區分)ノ一、ニヲ通シ各費目共價格ノ基準ヲ委員會ニ於テ把握シ需給ノ出合價格ノ統一ヲ亂スコトナキ様努力スルコト
- 尙公道價協定價アル場合ハ之ヲ原則トスベキハ無論ナルモ實際取得ノ爲之ニ依ルコト不可能ノ場合ハ市場ノ通り相場ヲ斟酌シテ適當ニ定メテ之ヲ支拂フコト

- ムヘキコト(此ノ場合ハ通り相場ノ低落ニハ當ニ追隨シ得ル様措置スルコト)
- (一) 勞賃ニ付テハ地方廳ノ意見ヲ中心トスヘキコト
- (二) 賃貸料、借地料等ニ付テハ地方廳ト協議シ要スレハ専門家(勸業銀行等)ノ意見ヲ徵スルコト
- (三) 移轉料、立退料ハ強制疎開等ノ例ニ依リ適正ニ決定スルコト
- (四) 個人的「サーヴィス」ニ屬スル給料等モ他ノ價格同様適正ヲ圖ルコト
- (五) 自動車運輸港灣作業等ノ「サーヴィス」料ニ付テハ運輸省當局ノ意見ヲ中心トスベキコト
- (六) 進駐軍ヨリ原料ヲ提供シテ製造スル物資ノ代價ハ其ノ原料ノ價格ヲ控除シテ之ヲ定ムベキコト

第四、間接税ニ付テ

- 一、進駐軍ノ各種ノ支拂ニ關聯シ物品稅遊興飲食稅等ノ間接稅ヲ之ニ賦課スルヤ否ヤガ問題トナリ多少ノ紛爭ヲ生ジタル地區モアル處此ノ問題ニハ本邦ハ從來ヨリ列國外交官ニ對シテモ一樣ニ課稅シ來リ(輸入稅ハ免除セルコト勿論ナリ)シ程ナレバ進駐軍ニ對シテモ課稅ヲ原則トスベシ但シ無用ノ摩擦ヲ生ゼヌ様注意ヲ望ム
- 二、進駐軍自體ノ經營ト認ムベキ宿舍内部ノ經理ノ如キハ此ノ種課稅ノ對象トハナラズト認ム
- 三、既ニ免稅ヲ容認セル地區又ハ納稅ヲ要求シテ紛爭ヲ生ジタル地區ハ特ニ注意シテ摩擦ヲ避ケ課稅ヘノ切替ニ適當ノ機會ヲ把握スルヲ要ス

第五、經費支辨ニ關スル當面ノ問題

- 一、第二、ノ一、ノ經費ニ付テハ、各地事務擔當者ノ官職氏名及差當リ前渡ヲ必要トスル金額(不明ナル場合ハ駐屯兵一名ニ付一〇〇圓トシテ計算シ置クコト)ニ付テハ既ニ電信ヲ以テ照會セル處ナリ費地ノ分可及的速ニ回答アリ度シ
- 二、各地府縣廳等ニ於テ是迄既ニ立替拂セル經費ニ付テモ其ノ金額ヲ同ジク電信ヲ以テ照會セリ尙左ノ如ク措置セラレタシ
- (一) 右ノ立替拂ニ對シテハ事務擔當者ハ新規ノ支拂ト同様ノ手順ニ依リ取扱銀行ヲ自己ノ勘定ニ入金ヲ得テ此ノ勘定ヨリ從來ノ立替者ニ支拂フコト
- (二) (一)ノ支拂ニ際シテハ第一、(經費支辨ノ方法等)ノ一、ノ(七)ト同様ノ證據書類ヲ徵取シ取揃ヘ置クコト

四、通譯ノ身分及待遇ニ關スル件

- 一、身分
 - 常勤者ハ外務省嘱託(委任待遇若シクハ判任待遇)又ハ雇トス
 - 臨時勤務ノ者ハ外務省臨時嘱託又ハ雇トス
 - 本人ノ經歷、能力等ヲ勘案シ最低一〇〇圓、最高二五〇圓ノ月給ヲ給ス
 - 右ノ外勤務振ニ應ジ適當ノ精勤手當ヲ給ス
 - 東京以外勤務ノ場合ハ宿舍食料或ハ其等ノ費用ヲ給與スルコトアルヘシ
 - 尙臨時勤務ノ者ハ日給制(五四―拾圓)トシ實働日數ニ應ジ給與ス
- 三、支拂地
 - 東京及東京附近ハ中央事務局ニ於テ他ノ地域ハ現地各機關ニテ支拂フモノトス

A:10-0-2

(A2)

大 陸 駐 野

GO DE SCAP NO 1 URGENT GR 255 TOC 161005 Z
FROM SCAP TO JAPANESE GOVERNMENT (ZAX 5504)

Arrangements have been made to transfer Japanese air transport service from Haneda airfield to Matsudo airfield (reference scap zebra able xray five four naught eight) PS (following plan is approved in schedules air service opens at Matsudo naught eight hundred hours eighteen september.) Movement of following aircraft from Haneda and slant or Tokorozawa to Matsudo approved CLN sixteen september dash six Dog Charlie three CMA one Mike Charlie twenty CMA five shiragiku single engine utility CMA one type nine nine advanced trainer. On seventeen september six Dog Charlie three CMA one Mike Charlie twenty CMA three shiragiku utility CMA two type five four advanced train 2r CMA and one small type non combat aircraft. On eighteen september seven Dog Charlie three airplanes. Movement of maintenance equipment CMA airplane parts for non combat aircraft CMA radio communication and navigational equipment CMA electrical and radio repair parts and equipment CMA sixty drums of Avgas CMA thirty one drums of Mogas CMA four five RPT five naught Brums of Lubricati G oil CMA two five four cans of Lubricating oil CMA bedding CMA meteorological instruments CMA miscellaneous tools CMA documents and stationary CMA six motor cars of various types CMA and supplies of charcoal. It has been agreed with general

0258

cook of feasc that evacuation of above will be completed prior to twenty two September. Request gate guards CME military police CMA and other security personnel be advised of above approved movement in order that no unnecessary delay will be occasioned due to misunderstandings this message have been passed to the following CG eighth army, advon feaf (Tokyo), comgen atc (Atsugi field), the Imperial Japanese Government passed to the following for information comaf five, (Com third fleet, Comgen eleventh corps, Cincafpac (Manila), Comgen Feat (Manila.)

end of message

0259

3

(3) 厚木及び横浜のありし米軍の進駐関係 (第一巻に附す)